

○議長（茅沼隆文）

皆さん、おはようございます。会議に先立ち、去る４月２６日に執行されました町長選挙において当選された府川町長より所信表明の申し出がありましたので、これを議長において許可します。

町長、どうぞ。

○町長（府川裕一）

皆さん、おはようございます。６月議会の前に、このような場を提供いただき本当にありがとうございます。

今、目の前にあじさいの花が飾ってありますけれども、うちの町の職員が丹精込めて育てた花が、今のこの時期でも、まだこのように生き生きと咲いている。開成町の最大のイベントである開成町あじさいまつりも、無事１４日に終わることができました。夜、雨が降って、朝、やむという最高のお天気に恵まれまして、あじさいの花もきれいで、お客さんも過去最高の来客を見込まれます。さらに、花だけではなくて、今年、町制６０年の中でブランディングを立てまして、そのブランディング効果も相まってお客様に喜んでもらうこともできました。開成町の元気を十分、このあじさいまつりにおいて内外に発信をすることができたと、そして町制施行６０周年にふさわしいスタートが切れたのかなと思っています。

また、５月に開催をいたしました東アジア文化交渉学会では、中国、韓国、香港など多くの外国・地域の研究者から、開成町の自然環境のよさと開成町民が示したおもてなしの心に多くの称賛の声もいただくことができました。さらに、元ＮＨＫニュースキャスターとして活躍された大越健介氏を講師としてお招きした教育講演会、福社会館の席も満席となるほど大盛況を迎えることができました。

さて、４月の統一選挙から早くも２カ月がたとうとしております。改めて町民の皆さんから町長としてご信任をいただきましたので、６月議会、この場をおかりして２期目に臨む私の思いと意志を、お手元にお配りいたしました公約をもとに所信表明をさせていただきますので、どうかよろしくお願いいたします。

開成町は、この５月に人口が１万７、０００人を超えました。多くの市町村では人口減少に苦しんでいる中であって、開成町では、この４年間に６４２人の人口が増えました。人口は、町の活性化と活力の要であります。今の元気をさらに発展させ、２０２０年の東京オリンピック・パラリンピックまでには人口を２万人にし、子どもたちの賑やかな声が響き渡る元気な町を目指していきたいと考えております。

さて、選挙期間を通じて皆様からお伺いしましたさまざまなご意見の中には、開成町の現状とこれまでの町の取り組みについて、説明が足らずに町民の皆様にご误解が生じている点があると思われまますので、幾つかのことについて、あえてご説明をし、その後で２期目の公約と掲げた「三つの戦略プランと地域ビジョン」について説明をさせていただきます。

１点目は、町の財政について。この議会でも関連する一般質問が予定をされておりますので、詳しくはそちらで説明をさせていただきますが、開成町の財政状況は

十分に健全な状況にあり、いずれの指標も基準値まで十分余裕のある数値となっております。町税などの一般財源のうち経常的に使われる経費の比率を示す経常収支比率は、県下で1、2位を争う良好な数値となっております。これは、町財政に弾力性があるということをあらわしております。

二つ目、役場庁舎建設問題についてであります。この庁舎は、昭和45年の竣工当時は開成町民センターとして、役場庁舎機能にあわせ町民活動の拠点の役割も果たしてきました。しかし、45年が経過した今、役場の業務量と範囲の拡大により、昭和60年に竣工した開成町民センターで業務の一部を行っている状況にあります。これは非効率であるばかりか、来庁される方に多大な不便をおかけすることにもなっております。また、エレベーターもなく、バリアフリーにも対応しておりません。さらに看過できないのは、役場庁舎は万が一の災害の際に防災の拠点、その後の復興の拠点として機能しなければならないにもかかわらず、その安全性が確保できていない点にあります。

4年前の東日本大震災以降、議会からも町民の方からも、庁舎の安全性を危惧する声がますます多く聞かれるようになりました。町としても手段を尽くして町民の皆様の方を集約した結果として、第五次開成町総合計画にこれらの点を踏まえて庁舎整備の必要性を明記し、平成24年町議会12月会議で議決をいただきました。これを受けて、さらに町民目線の議論や識者の意見を伺うため、開成町庁舎整備基本構想等策定委員会を設置し、先ごろ委員会としての基本構想、基本計画が示されたところであります。庁舎建設は既に先送りは許されない事業であり、課題を一つ一つ解決しながら計画どおり実施をしていきたいと考えております。

3点目、開成町の子育て支援策について、他市・町と比較しても決して劣ることではないということであります。将来の子どもの人口増を見越して建設した開成南小学校は、新しい教育に対応した施設であります。ご家庭の負担を軽減する学校給食は、完全給食を自校調理で提供しております。また、保険健康課で行っている乳幼児家庭全戸訪問は、平成21年度の法制化に先立つ平成8年度から開成町は既に行っております。開成町の子育て支援策は、きめ細かく充実しており、今後もさらに強化をしていきたいと思っております。

なお、小児医療費助成制度の拡大については、町では従来から、この制度は国による統一した制度設計の下で行われるべきものであると主張をしてきたところであり、この考え方は現在も変わってはいません。しかしながら、議会でのたび重なるご提案があったことや子育て世代の定住促進の観点からの必要性、また南部地区土地地区画整理事業の効果による町税増収が見込まれる状況になり財源の見きわめもついたことから、平成27年度当初予算に盛り込み議会の承認をいただくことになったものであります。このように、いろいろな要因を検討した結果として制度の拡大に踏み切ったということは、ぜひ、ご理解のほうをお願いいたします。

4点目、介護保険料月額基準額を増額し、5,150円としたことであります。介護保険制度が平成12年に家庭で担っていた介護を社会全体で支える社会保障制

度として創設されて以来、徐々に介護サービスを提供する事業者が増え、制度自体も改善されて、利用者にとってはさまざまな選択肢から適切なサービスを選択できるようになってきております。この制度を支える財源は税金等からの負担や皆様から徴収する保険料で成り立っておりますが、サービス利用が増えれば、それに応じた保険料を設定する必要があります。5, 150円という介護保険料基準額は、サービス利用の今後の動向とご負担いただく人の増加状況の推計をもとに算出したものであります。恣意的に保険料の増額を抑えると、その分として町税を投入しなければならない、制度の趣旨に反することになることをご理解いただきたいと思います。皆さんが介護を必要とせず、いつまでも元気でいられるようにすることは私の政策の柱の一つであり、十分に意を注いでいくことをお約束していききたいと思います。

それでは、私の政策である開成町の明るい未来に向けた三つの戦略プランと地域ビジョンについて、説明をさせていただきます。お手元の資料をご覧ください。主なものについて、説明をさせていただきます。

開成町には、最上位の計画として「明るい未来に向けて人と自然が輝くまち・開成」、これを将来都市像に掲げる第五次開成町総合計画があります。これは、まず町民の皆様が1年をかけて議論を重ねたワークショップからの提言をもとに素案をつくり、さらに町づくり集会でのご意見を加味し、議会の承認を得て策定したものであります。まちづくりは、この計画をもとに進めております。この計画を町民の皆様とともに進めていけるようスローガンを掲げました。「日本一元気な町、日本一きれいな町、日本一健康な町を目指して」ということであります。このたびの私の公約も、これをもとに組み立てております。

戦略プラン一つ目、子どもが元気な町づくり。

駅周辺の南部地区土地区画整理事業が間もなく終了いたします。できるだけ若い世代の方々に移り住んでいただけるよう、子育て支援を充実させていきます。開成駅東口に子育て支援センターの設置をし、常設型にすることにより、いつでも気軽に立ち寄り相談することができるよういたします。また、ファミリーサポートセンターを組み合わせることで、効率的で使いやすい体制にしていきます。先ほど述べました小児医療費通院助成についても小学校6年生まで拡充するほか、放課後児童クラブを4年生まで拡大することで保護者の負担を軽減し、子育て環境を充実させます。開成幼稚園は、将来の3年保育を目指し、今あるのびのび子育てルームを、さらに拡充していきます。

戦略プランの二つ目、暮らしやすくきれいな町づくり。

開成町の目指す町は、田舎モダン的な町であります。自然環境はきちんと守り、なおかつ、おしゃれで便利なところもあわせ持つところが必要であります。水と緑の保全と創出、ホテルの住める自然環境を守っていききたいと思います。町内の東西南北をバスで巡回させ、また南足柄、開成、大井を運行するバス路線を広域で連携し確保していくことで開成駅利用者を増やしていききたいと思います。さまざまな施

策を組み合わせながら開成駅に急行列車の停車を目指し、さらに町民の皆さんの利便性を高めていきたいと考えております。

戦略プランの三つ目、皆がいきいきと健康な町づくり。

神奈川県では「未病」をキーワードに、県西地域に力を入れております。開成町のパークゴルフ利用者数は、年間10万人を超えております。この水辺スポーツ公園を神奈川県の運動の駅といたしました。リハビリステーション設備の設置やICTを活用した健康ステーションの整備をしていき、健康寿命を平均寿命に近づけていきたいと考えております。スポーツ環境の整備とともに保健師を増員し、健康づくりや保健予防の充実を図ることで、人生90年時代を健康で暮らせる環境を整えていきたいと思っております。

次に、地域ビジョンについてご説明をいたします。

北部地域、農業の再生と六次産業化のモデル地域にしていきたいと。2020年には東京オリンピック・パラリンピックが東京で開催をされます。それにあわせて神奈川県は、箱根の仙石原地区と南足柄の矢倉沢地区の林道を整備し開通させることとしております。千載一遇のチャンスと捉え、これに連携して瀬戸屋敷周辺を整備し交流人口の増を図ります。弥一芋など開成町特産品の充実と付加価値を高めることで、農業経営の活性化もあわせて図ります。豊かな自然を守るとともに活用し、子どもたちが思い切り自由に遊べる子どもパークの整備にも努めていきたいと思っております。

中部地域は、文化コミュニティー拠点と暮らしやすい地域にしていきたいと思っております。防災の拠点となる役場庁舎整備を計画的に進めていきたい。昭和45年に建てられた役場は老朽化が激しく、外壁の落下の危険もあり、皆様のご意見を聞きながら計画的に進めていきたい。町民の公益的な活動を支援する町民活動サポートセンターも、あわせて整備をしていきたいと考えております。

南部地域は、県西地域の副次拠点として魅力ある地域にしていきたい。開成駅周辺を活気があり、にぎやかな地域にするため、駅東口には子育て支援センター、役場連絡所機能と自治会館の整備をしていきます。駅西口は、緑あふれる駅前通り線を中心として、県西地域における副次拠点にふさわしい顔として活力ある街並みの整備を進めていきたいと思っております。また、南足柄との連携によりビレッジ構想を進め、足柄上地域の新たな産業集積を図っていきます。

以上、三つの戦略プランと地域ビジョンについて説明をさせていただきましたが、加えて、私は、この60周年を機に改めて人づくり、教育に最大限、力を入れていきたいと考えております。全ての町民が豊かな自然の中で健康で潤いに満ちた幸福な生活を送ることができる社会を実現するため、町名由来でもあり「学問・知識を開発し、世のために務めをなす」という「開物成務」の精神で人づくりに取り組んでいきます。

その基本方針として、一つ目は学力も体力も道徳心もすぐれた子どもを育てること、二つ目は全町民が教育にかかわる仕組みづくりを進めること、三つ目は地域の

教育力日本一を目指すこと、この三つを三つのビジョンとして掲げさせていただきました。

この4月から、3歳から5歳までの幼児教育の充実を図ること、また0歳から小学校6年生までの子育て支援の充実を図ること、この二つの方針のもと、組織・機能の見直しをし、子育て支援関連事務を教育委員会に移し、子ども・子育て支援室を新設いたしました。これまでのコミュニティ・スクール、外国人教師を幼・小・中に派遣し国際理解教育、吉田島総合高校、城北工業高校との連携など多くのことに取り組んできましたが、さらに、これらを充実・発展をさせていきたい。また、新たに土曜授業の創設、高校・大学・企業とのタイアップ、冒険遊び広場プレイパークの設置、体験学習の充実など、これらにも新たに挑戦をしていきたいと考えております。

私が、この4年間で養ってきた県とのパイプや近隣市・町等の首長との人脈を最大限生かし、町民の皆さんが誇りに思える元気な開成町にしていけるよう、誠心誠意、町政運営に取り組んでいきます。

最後になりますが、改革を進められてきた開成町議会に敬意を表すとともに、町民の信託を受けた議員の皆さんと今後も研さんを重ね、この議場における議論が町の発展と町民の皆さんの幸せにつながっていくことを切に願っております。

以上で、私の2期目に向けた所信表明とさせていただきます。ありがとうございました。